

2026年 8 月期 中間決算短信〔日本基準〕（連結）

2026年 4 月14日

上 場 会 社 名 株式会社ヒロホールディングス
コ ー ド 番 号 5130 URL https:// www.kk-hiro.com
代 表 者 （役職名） 代表取締役社長 （氏名） 向山 孝弘
問合せ先責任者 （役職名） 取締役財務経理部部长 （氏名） 東浦 晃 TEL 0745 (71) 6661
中間発行者情報提出予定日 2026年 5 月29日 配当支払開始予定日 —
中間決算補足説明資料作成の有無： 無
中間決算説明会開催の有無： 無

（百万円未満切捨て）

1. 2026年 8 月期中間期の連結業績（2025年 9 月 1 日～2026年 2 月28日）

（1）連結経営成績（累計）（％表示は、対前年中間期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 中間純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2026年 8 月期中間期	1,184	△9.2	68	△38.9	64	△50.2	42	△48.6
2025年 8 月期中間期	1,304	16.9	112	625.3	129	805.8	83	807.1

（注）包括利益 2026年 8 月期中間期 42 百万円（△48.6％） 2025年 8 月期中間期 83 百万円（807.1％）

	1 株当たり 中間純利益	潜在株式調整後 1 株当たり中間純利益
	円 銭	円 銭
2026年 8 月期中間期	142.60	—
2025年 8 月期中間期	277.27	—

（注）潜在株式調整後 1 株当たり中間純利益については、潜在株式がないため記載しておりません。

（2）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2026年 8 月期中間期	1,060	198	18.7
2025年 8 月期	1,076	162	15.1

（参考）自己資本 2026年 8 月期中間期 198 百万円 2025年 8 月期 162 百万円

2. 配当の状況

	年間配当金		
	中間期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭
2025年 8 月期	0.00	19.81	19.81
2026年 8 月期	0.00		
2026年 8 月期（予想）		—	—

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無
2026年 8 月期の配当につきましては、現時点では未定としております。

3. 2026年 8 月期の連結業績予想（2025年 9 月 1 日～2026年 8 月31日）

（％表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益	1 株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	円 銭
通期	2,701	5.1	233	8.0	214	△2.2	144	21.2
								480.03

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当中間期における連結範囲の重要な変更：無

(2) 中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：有

(注) 詳細は、添付資料8ページ「2. 中間連結財務諸表及び主な注記(3) 中間連結財務諸表に関する注記事項(中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理に関する注記)」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：無

② ①以外の会計方針の変更：無

③ 会計上の見積りの変更：無

④ 修正再表示：無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

2026年8月期中間期	300,000株	2025年8月期	300,000株
2026年8月期中間期	一株	2025年8月期	一株
2026年8月期中間期	300,000株	2025年8月期中間期	300,000株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数(中間期)

※ 中間決算短信は公認会計士又は監査法人のレビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる場合があります。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況.....	2
(1) 当中間期の経営成績の概況.....	2
(2) 当中間期の財政状態の概況.....	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明.....	3
2. 中間連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 中間連結貸借対照表	4
(2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書	6
中間連結損益計算書.....	6
中間連結包括利益計算書.....	7
(3) 中間連結財務諸表に関する注記事項	8
(中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理に関する注記)	8
(中間連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	8
(セグメント情報等の注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(継続企業の前提に関する注記)	9

1. 経営成績等の概況

(1) 当中間期の経営成績の概況

当中間連結会計期間における我が国経済は、賃上げに伴う所得環境の改善を背景に、緩やかな回復基調となりました。一方で、イラン情勢をはじめとする中東地域の緊迫化に伴う資源価格や物流費高騰への懸念、米国の通商政策の動向など、先行きは依然として不透明な状況が続いております。

このような事業環境のなか、当社グループが運営するキャリアショップでは、引き続き商業施設等でのイベント開催による新規契約獲得機会の創出に努めておりますが、業界全体の販売方法の変化等により、前年同期比18.2%減(2025年8月期中間期8,958件・2026年8月期中間期7,325件)の新規契約件数となりました。

なお、今後につきましては、保有顧客のオプションサービス等の継続利用による手数料収入が収益の下支えになる体系に変化してきているため、キャリアショップの顧客に合ったプランの提案や付加価値提案を通して顧客満足度を向上させることにより、携帯電話の契約件数の多寡に影響されにくい収益モデルへの切り替えに取り組んでいます。

Zeta事業では、事業分野を『Zetaエンターテインメント』『Zetaインテリジェンス』という2つの大きな領域として区分しております。

『Zetaエンターテインメント』では、従来のカテゴリーであった「デジタルアーカイブ」と「エンターテインメント」を融合させることにより、単に文化財等をデータ保存するだけに留まらず、XR^{*1}やプロジェクションマッピング等の魅せるコンテンツとして展開させることにより収益化を目指し、物理的な文化財等の保護へ直接還元できる取り組みを進めております。

また、『Zetaインテリジェンス』では、最先端のAIを駆使して、地域の災害や犯罪を未然に防ぎ安心できる社会インフラの構築を目指しております。

さらに、現在実績を積み重ねてきたデジタルアーカイブを1つの手段として、MR^{*2}を駆使したLBE^{*3}の開発・実証実験を進めており、翌連結会計年度の下期以降では収益に大きく貢献することが見込まれ、Zeta事業の柱になることが予想されます。

当社では、このZeta事業を通して地域活性化を図り地域分散型社会を目指す挑戦を続けております。

※1 XR

現実世界と仮想世界を融合することで、現実の枠を超えた新しい体験を提供する技術のことで、VR/AR/MRといった先端技術の総称

※2 MR

実際にはその場所にはないものを現実世界と仮想の世界を重ね合わせて表示(複合現実)し、自由な位置や角度から体感できる技術

※3 LBE

Location-Based Entertainmentの略で、特定の場所(テーマパーク、商業施設など)で体験する、VR/ARなどを駆使した没入型エンターテインメント

このような状況のもと、売上高は1,184,269千円(前年同期比9.2%減)、営業利益は68,954千円(前年同期比38.9%減)、経常利益は64,516千円(前年同期比50.2%減)、親会社株主に帰属する中間純利益は42,780千円(前年同期比48.6%減)となりました。

セグメント別の業績は、以下のとおりです。

① コンシューマ通信事業

イベントの開催場所や回数を見直し、生産性の高いイベントに注力するなど効率的な拡販方法に切り替えてまいりましたが、業界全体の販売方法の変化等による契約件数の減少のため、売上高は1,150,470千円(前年同期比7.4%減)となり、セグメント利益は101,639千円(前年同期比26.7%減)となりました。

② Zeta事業

昨年度の万博需要による受注の前倒しの反動により、売上高は10,849千円(前年同期比75.9%減)となり、セグメント利益は△3,570千円(前年同期比244.4%減)となりました。

③ その他事業

法人通信事業における新規・機種変更の端末販売件数の増加により、売上高は22,948千円(前年同期比27.6%増)となり、セグメント利益は3,965千円(前年同期比28.3%増)となりました。

(2) 当中間期の財政状態の概況

当中間連結会計期間末の財政状態につきましては、以下のとおりです。

(資産の部)

当中間連結会計期間末における流動資産は953,436千円となり、前期末に比べ6,641千円減少いたしました。これは主に、売掛金の増加6,587千円及び商品の増加8,290千円があったものの、現金及び預金の減少23,316千円等があったことによるものです。固定資産は107,547千円となり、前期末に比べ8,434千円減少いたしました。これは主に、有形固定資産及び無形固定資産の減価償却費の計上8,327千円等によるものです。

この結果、総資産は1,060,983千円となり、前期末に比べ15,075千円減少いたしました。

(負債の部)

当中間連結会計期間末における流動負債は288,473千円となり、前期末に比べ42,262千円減少いたしました。これは主に、未払法人税等の減少32,187千円及び流動負債その他に含まれる未払消費税等の減少11,627千円等によるものです。固定負債は573,655千円となり、前期末に比べ9,649千円減少いたしました。これは主に、長期借入金の減少10,249千円等によるものです。

この結果、負債合計は862,129千円となり、前期末に比べ51,912千円減少いたしました。

(純資産の部)

当中間連結会計期間末における純資産合計は198,854千円となり、前期末に比べ36,837千円増加いたしました。これは主に、利益計上に伴う利益剰余金の増加42,780千円等によるものです。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2026年8月期の通期の業績につきましては、2025年10月15日に公表致しました業績予想から変更はございません。

2. 中間連結財務諸表及び主な注記

(1) 中間連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2025年 8 月 31 日)	当中間連結会計期間 (2026年 2 月 28 日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	830,792	807,476
売掛金	69,255	75,843
有価証券	368	368
商品	41,214	49,505
貯蔵品	1,807	1,634
前払費用	15,807	18,162
その他	831	445
流動資産合計	960,077	953,436
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	39,164	36,934
器具及び備品（純額）	29,117	24,384
建設仮勘定	2,009	2,009
有形固定資産合計	70,290	63,328
無形固定資産		
のれん	6,146	5,685
その他	1,177	889
無形固定資産合計	7,323	6,574
投資その他の資産		
繰延税金資産	8,876	8,876
その他	29,491	28,768
投資その他の資産合計	38,367	37,644
固定資産合計	115,981	107,547
資産合計	1,076,059	1,060,983

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2025年 8 月 31 日)	当中間連結会計期間 (2026年 2 月 28 日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	1,021	1,332
短期借入金	10,000	10,000
1 年内返済予定の長期借入金	183,058	194,563
未払金	48,815	42,502
未払法人税等	53,525	21,337
賞与引当金	3,040	2,210
その他	31,276	16,528
流動負債合計	330,736	288,473
固定負債		
長期借入金	577,037	566,788
退職給付に係る負債	6,178	6,867
その他	90	—
固定負債合計	583,305	573,655
負債合計	914,041	862,129
純資産の部		
株主資本		
資本金	50,000	50,000
資本剰余金	2,000	2,000
利益剰余金	110,017	146,854
株主資本合計	162,017	198,854
純資産合計	162,017	198,854
負債純資産合計	1,076,059	1,060,983

(2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書
(中間連結損益計算書)

(単位：千円)

	前中間連結会計期間 (自 2024年 9 月 1 日 至 2025年 2 月 28 日)	当中間連結会計期間 (自 2025年 9 月 1 日 至 2026年 2 月 28 日)
売上高	1,304,948	1,184,269
売上原価	944,139	870,440
売上総利益	360,808	313,828
販売費及び一般管理費	247,903	244,874
営業利益	112,905	68,954
営業外収益		
受取利息	123	681
補助金収入	21,703	—
その他	50	30
営業外収益合計	21,877	712
営業外費用		
支払利息	3,404	5,048
支払手数料	1,435	—
その他	295	101
営業外費用合計	5,135	5,150
経常利益	129,647	64,516
特別損失		
固定資産除却損	5,471	—
特別損失合計	5,471	—
税金等調整前中間純利益	124,175	64,516
法人税等	40,995	21,736
中間純利益	83,180	42,780
親会社株主に帰属する中間純利益	83,180	42,780

(中間連結包括利益計算書)

(単位：千円)

	前中間連結会計期間 (自 2024年 9 月 1 日 至 2025年 2 月 28 日)	当中間連結会計期間 (自 2025年 9 月 1 日 至 2026年 2 月 28 日)
中間純利益	83,180	42,780
中間包括利益	83,180	42,780
(内訳)		
親会社株主に係る中間包括利益	83,180	42,780
非支配株主に係る中間包括利益	—	—

(3) 中間連結財務諸表に関する注記事項

(中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理に関する注記)

税金費用については、当中間連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前中間純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(中間連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

中間連結会計期間に係る減価償却費（無形固定資産に係る償却費を含む。）及びのれん償却費は、次のとおりであります。

	前中間連結会計期間 (自 2024年 9 月 1 日 至 2025年 2 月 28 日)	当中間連結会計期間 (自 2025年 9 月 1 日 至 2026年 2 月 28 日)
減価償却費	10,477千円	8,327 千円
のれん償却費	461千円	461 千円

(セグメント情報等の注記)

1. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額に関する情報
前中間連結会計期間（自 2024年 9 月 1 日 至 2025年 2 月 28 日）

(単位：千円)

	報告セグメント		その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	中間連結財務 諸表計上額 (注) 3
	コンシューマ 通信事業	Zeta事業				
売上高						
外部顧客への売上高	1,241,955	45,012	17,980	1,304,948	—	1,304,948
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	1,241,955	45,012	17,980	1,304,948	—	1,304,948
セグメント利益	138,600	2,472	3,089	144,162	△31,256	112,905

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、法人通信事業、Rebonally事業、貸会議室事業を含んでおります。

2. セグメント利益の調整額△31,256千円は全社費用であり、報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. セグメント利益は、中間連結損益計算書の営業利益と一致しております。

当中間連結会計期間 (自 2025年 9 月 1 日 至 2026年 2 月28日)

(単位：千円)

	報告セグメント		その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	中間連結財務 諸表計上額 (注) 3
	コンシューマ 通信事業	Zeta事業				
売上高						
外部顧客への売上高	1, 150, 470	10, 849	22, 948	1, 184, 269	—	1, 184, 269
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	1, 150, 470	10, 849	22, 948	1, 184, 269	—	1, 184, 269
セグメント利益	101, 639	△3, 570	3, 965	102, 034	△33, 079	68, 954

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、法人通信事業、Rebonally事業、貸会議室事業を含んでおります。

2. セグメント利益の調整額△33,079千円は全社費用であり、報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. セグメント利益は、中間連結損益計算書の営業利益と一致しております。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。